

セクション：医療 4 (10 月 22 日)

## 診療報酬と入院日数

山 川 智 之 (南大阪病院)\*<sup>1</sup>

### 概要

日本の 1 人当たりの平均在院日数は、2003 年で 36.4 日と他国に比べて極端に長い。入院の長期化は、社会的要因による選択など医療需要サイドの問題と、医師誘発需要の発生、過剰な病床数や看護婦不足のサービス低下などの医療供給サイドの問題がある。ゆえに、入院日数そのものを制限するだけではその短縮は難しい。本論は、医療供給サイドが入院日数をどのような決定をするのか分析をして、効果的な入院日数の短縮について明らかにすることが目的である。2003 年には、「入院 1 日当たりの包括払い」である診断群別包括払い制度 (DPC/PPS) が試験的に導入された。この DPC/PPS の下で病院による入院日数の決定問題を分析した。その結果、1 日当たり診療報酬を入院日数に応じて大きく引き下げるほど入院日数が短くなるとの結論を得た。効果的な入院日数の短縮を行うためには、入院当初の診療報酬を増加するかあるいは長期入院の診療報酬を低く設定する必要がある。

---

\*<sup>1</sup> tel : 06-6685-0221    mail : yamakawa.rh@minamiosaka.com